

教育目標

心豊かに充実した生活を送ることのできる子どもの育成
～主体的に生き生きと遊ぶ子どもをめざして～

年度末の最終評価

自己評価

各学年の発達年齢に応じた育ちがみられた。4歳児は自分の思いを十分に出し、友達とのかかわることを楽しみ一緒に遊びを進めようとするようになってきた。5歳児は、様々な葛藤を体験しながら仲間と共通の目当てをもち、遊びを深めたり相手の思いを受け入れたりするようになってきた。次年度はさらに研究面で深めていき、保育実践に生かしていきたい。

学校関係者評価

幼稚園での遊びが、子どもの発達にとっても大切であることが感じられた。引き続き地域の自然も活用して教育を進めていってほしい。今の保護者にも、子育てに関して必要なことはしっかりと伝えていってほしい。何かできることがあったらサポートはしていきたい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	10月5日	学校運営協議会
最終評価	3月4日	学校運営協議会

（1）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

- 保育を子どもの姿を“主体的に遊ぶ姿”“資質・能力の3つの柱”から捉える。
- 自然環境を生かし、教材について研究し、育ちにつながる環境構成や援助について検証する。
- 週案の作成・反省・評価によるPDCAサイクルの確立。

（取組結果を検証する）各種指標

- 子どもの遊びの記録，事例研究
- 週案の反省・評価
- アンケート指標「子どもは、やりたい遊びを見つけて楽しんでいる」「子どもは、園内の自然環境を遊びに取り入れて楽しんでいる」

中間評価

	<div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> 記録や事例研究では、園内研究のテーマでもある自然環境を、存分に生かした保育が展開できるよう、環境設定を工夫してきた。 アンケート結果「子どもは自分から遊びを見つけて夢中になって遊んでいる」については年長・年少とも「そう思う」「大体そう思う」を合わせると100%となる。
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> 環境設定を工夫したことにより、園内環境特に生き物の生息状況がかなり豊かになった。子どもも自然環境に自ら興味をもってかかわる姿が見られた。 アンケート結果は良好であったが、より幼稚園教育の理解を深めるようにしていきたい。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> 今後も、園内環境を生かし子どもの育ちにつながるように見直していきたい。
	<div>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> 事例研究 アンケート項目 ・ 週案の評価
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> アンケートの結果が良好であるので、幼稚園の自然環境をしっかりと生かしているのではないかと。 地域の自然環境も生かせるよう、協力できることがあれば協力したい。

最終評価

	<div>中間評価時に設定した各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> 事例研究により、自然の中での育ちをまずきちんと分析し、そのうえで、3つの資質能力の視点でも捉えていくことを大切にしてきた。 アンケート項目「保育の充実について」は3つの項目を設定したが、100%「そう思う」「大体そう思う」という結果であった。自然環境についての項目については、子ども・保護者とそれぞれの項目でも子ども…98%、保護者…100%と高い数値となり、特に保護者の自然への関心度が高く、意識がより高まったことがうかがえた。
自己評価	<div>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <ul style="list-style-type: none"> 研究テーマに沿って、園内環境が見直され、教員の意識が高まり環境が豊かになったことが、保育に反映され、子どもの育ちにつながった。次年度はさらにカリキュラムマネジメントという視点で充実させていきたい。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> 今年度の成果を踏まえ、更に充実させていくには何が必要なのか、教員がしっかりと共有できるよう週案について話し合う機会をもつようにしていきたい。
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> アンケートによると、子どもも保護者も満足度が高いことがわかる。引き続き取り組んでほしい。

価	
---	--

(2) 幼小連携・接続に関して

具体的な取組 <ul style="list-style-type: none"> ○ 近隣の小学校への保育公開，小学校の授業参観，研究授業参観。 ○ 保幼小連携会議への参加。 ○ 「親子で絵本！」の活用度を，定期的に点検，把握，改善。 	
(取組結果を検証する) 各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育公開の参加実績・小学校の授業参観，研究授業参観の参加回数。 ・ 保幼小連携会議への参加回数と協議内容。 ・ 交流事業の実践結果。 ・ アンケート項目「読書ノート“親子で絵本”は活用できている」「親子での絵本の読み聞かせは大切であると感じる」 ・ 「親子で絵本！」の活用実績。 	

中間評価

各種指標結果 <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校の休日参観や自由参観で，卒園児の様子を見て，情報交換をすることができた。 ・ アンケート「子どもに絵本の読み聞かせをすることは大切なことだと思う」については，年長・年少とも「そう思う」「大体そう思う」を合わせると100%となる。「読書ノート「親子で絵本」は様々な機会に利用している」については，年少については，「そう思う」「大体そう思う」を合わせると87%，年長については，「そう思う」「大体そう思う」を合わせると66%となった。 	
自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校の授業の様子を見て，子どもの成長を感じることはできたが，さらに幼小で実態を共有できれば良いと思う。 ・ 読書ノートの利用については，保護者も大切さを意識はしているが，利用するのに抵抗があるようである。特に年長に利用が進んでいないことについて，課題である。 ・ 幼小接続年間指導計画を作成した。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・ 親子で読書の大切さを再度伝え，「読書ノート」にその足跡を残す意味を伝えることで利用を促す。 ・ 幼小接続年間指導計画を検証していく。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 保幼小連携会議への参加回数と協議内容。 ・ 交流事業の実践結果。 ・ 「親子で絵本！」の活用実績。

学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・幼小連携をこれからも進めていってほしい。 ・「親子で絵本」がもっと有効に活用できれば良いと思う。
---------	--

最終評価

<div>中間評価時に設定した各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・保幼小連絡会議参加。自由参観，学芸会等の参観参加。・交流授業の事前打ち合わせの実施。 ・「親子で絵本」の活用実態確認。 	
自己評価	<div>分析（成果と課題），重点目標の達成状況，次年度の課題</div> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は，小学校との交流において，綿密な事前打ち合わせを行い，互いにねらいを確認し，交流までの幼小相互の取り組みも充実させ，子どもが意欲をもって交流に臨むことができた。次年度も，今年度のような形態で進められればと思う。 ・「親子で絵本」の活用においては，「親子で絵本の読み聞かせは大切」の項目においては100%「そう思う」「大体そう思う」であったが，読書ノートの利用は，7割弱という，前期から横ばいであった。今後は積極的利用に向けて伝えていきたい。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度もできる限り小学校の参観や公開授業，連絡会への参加を継続していく。 ・交流においても，今年度のような打ち合わせの機会を設けられるよう働きかけていく。 ・「読書ノート“親子で絵本”」の活用を推奨していく。
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校との交流が良い形になってきている。継続して行ってほしい。 ・読書ノートを気軽に活用できるような形式にできないか。

（3）預かり保育に関して

<div>具体的な取組</div> <p>○指導計画を見直し，安心・安定して預かり保育に参加し，色々な遊びを楽しめるよう配慮，工夫する</p> <p>○長時間利用児の気持ちを十分に受け止め配慮する。</p> <p>○教育時間内と預かり保育時間の子どもたちの姿を担当，担当教員で密に連絡し合いながら，かかわりのあり方を考え実践していく。</p>
<div>（取組結果を検証する）各種指標</div> <p>○預かり保育参加人数</p> <p>○預かり保育の中での子どもの姿や教師のかかわり。</p> <p>○アンケート項目「子どもは預かり保育に喜んで参加している」「子どもは預かり保育の遊びを楽しんでいる」「預かり保育は保護者にとって有効である」など</p>

中間評価

	<div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の利用は、今年度になり増加している。特に年少組は午前保育の水曜日でも、半数から3分の2程度の利用がある。
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の利用者は多いが、教員の体制が課題である。ボランティアを活用しながらではあるが、日常的に担当教員だけでは、支援の必要な子どもの個々の対応をしきれない。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育ボランティアをより有効に活用する必要がある。 ・場の設定の工夫。
	<div>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート項目「子どもは預かり保育に喜んで参加している」「子どもは預かり保育の遊びを楽しんでいる」「預かり保育は保護者にとって有効である」など ・預かり保育参加人数
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・就労する保護者の増加とともに、長時間預けられている子どもがいる実態に、以前とは異なる幼稚園の役割がある事がわかった。何か、役に立てることがないか検討する。

最終評価

	<div>中間評価時に設定した各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート項目「子どもは預かり保育に喜んで参加している」においては、年少・年長とも85%が「そう思う」「大体そう思う」，「子どもは預かり保育の遊びを楽しんでいる」の項目は，「そう思う」「大体そう思う」あわせて95%，「預かり保育は保護者にとって有効である」の項目は97%になる。
自己評価	<div>分析（成果と課題），重点目標の達成状況，次年度の課題</div> <ul style="list-style-type: none"> ・「…喜んで参加…」について，15%がマイナス評価，「…保護者にとって有効…」と合わせて考えると保護者の都合で利用しているが子どもは喜んでいないという実態があることがわかる。しかし，「子どもは預かり保育の遊びを楽しんでいる」の数値が高いことから，参加してみれば楽しめていることがえる。より，内容を充実させていく必要がある。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・担任と預かり保育担当教員との連携を密に図り，安心して参加できるような配慮の継続していく。 ・興味関心を持って楽しんで遊べるような教材・遊具を充実していきたい。
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・就労支援の預かり保育は，保護者にとって有効に利用されていることがわかる。子どもに負担にならないように利用してほしいが，働く保護者を支えることも必要である。支援策を検討したい。

(4) 子育ての支援に関して

具体的な取組

- 子育て支援クラス教育相談のボランティアスタッフの質の向上。
- 未就園児の保護者への幼稚園教育の発信。

(取組結果を検証する) 各種指標

- 子育て支援の取り組みの回数や参加人数，教育相談件数。
- 保護者の意見。

中間評価

各種指標結果

- ・子育て支援の取り組みの回数は昨年並みであるが，登録者数は微減である。
- ・ボランティアスタッフについて，保護者の意見があった。
- ・幼稚園説明会の参加者から，公立幼稚園についてよくわかったと意見があった。保護者との座談会は好評であった。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・本園に関心のある人には，幼稚園説明会の取り組みは有効であった。
- ・ボランティアスタッフが保育についての情報共有をより密に図りながら，保育の在り方を検討する必要がある。
- ・子育て支援の登録者増加のための広報の仕方を検討する必要がある。

分析を踏まえた取組の改善

- ・地域に本園の子育て支援としての役割を周知できるよう，方法を検討していきたい。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・子育て支援の取り組みの回数や登録者数。
- ・保護者の意見。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・岩倉にいらながらも，明德幼稚園を知らない方がおられたことに驚きである。広報で力になれることがあればと思う。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果

- ・子育て支援の取り組みの回数については，昨年並みで，場所，人員，予算において限界まで実施している。ただ，3月は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止した。
- ・登録者数は変化なかった。厳しい状態である。

自己評価

分析（成果と課題），重点目標の達成状況，次年度の課題

- ・広報を充実させていきたいという点では，今年度は特にPTA役員の機動力があった。次年度も同様にというのは難しいが，保護者の協力も得て計画的に取り組みたい。

分析を踏まえた取組の改善

- ・2年保育の本園では，すぐに受け入れに結びつくものではないが，地域の小規模保育事業所との連携を探っていきたい。

学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・地域への広報なら力になれることがあるかと思う。協力していきたい。
---------	---

（５）地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

<div>具体的な取組</div> <p>○学校運営協議会「どんぐりーず」を再編し，園行事運営を見直し，有効活用する。</p> <p>○PTA，おやじの会のとの行事については，保護者の実態や負担も鑑み，見直しを図る。</p> <p>○関係者評価を園運営に生かす。</p>
<div>（取組結果を検証する）各種指標</div> <p>○地域と交流の内容や回数。地域の方の意見。</p> <p>○アンケート項目「学校運営協議会　どんぐりーずと参画する行事は子どもたちにとって良い経験となっている」「学校運営協議会　どんぐりーずに子どもたちも親しみをもっている。」など</p>

中間評価

	<div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none">・今年度，学校運営協議会「どんぐりーず」を再編し，新規理事とともに新たなメンバーでスタートすることができた。・PTAやおやじの会のかかわりは例年通りであるが，今年度はメンバーも増加し，園運営に協力体制が布かれている。
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none">・学校運営協議会が再編されたことで，園運営がスムーズにいくようになった。・PTAやおやじの会との連携が強固になっている。しかし，今後のPTA運営を考えると，就労支援との兼ね合いで，活動は見直す必要が出てくる。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none">・学校運営協議会の理事会の意見を園運営の視点からいただき，反映させていきたい。・新2号認定の増加による就労支援が拡大してく中での，PTAやおやじの会の活動の今後の方向性について，意見を集約していく必要がある。
	<div>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none">・地域と交流の内容や回数。地域の方の意見。・PTAやおやじの会の意見。
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none">・時代に沿った園運営が課題である。いろいろな意見を反映させていくのは難しいのではないかな。・地域としてできることはバックアップしていきたい。

最終評価

<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <p>・地域との交流は例年に準じた形で行っている。PTA、おやじの会の活動は、それぞれ今年度の役員が、これからの負担軽減や縮小を考えながら、今年度が今まで通りの行事ができるのが最後かもしれないという思いで、力を入れて行っていた。</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>・次年度の園児数減少を考えると、次年度は、例年通りの活動を見直していく年度になることが予想される。より良い方法を模索していきたい。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>・次年度に生かせる反省内容をPTAと共有し、次年度の取り組みを検討する。 (PTA班活動の見直し)</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>・PTA活動に生かせること、できることがあれば支援していきたい。</p>

(5) 業務改善・教職員の働き方改革について

<p>重点目標</p> <p>教職員の業務内容・勤務時間を意識し、改善点を明らかにし、働き方改革を推進する。</p>
<p>具体的な取組</p> <p>・会議の精選・効率化。行事の内容や業務の分担の見直しと効率化。超過勤務の短縮。電話対応時間を18時までとする。 水曜日をノー残業デーに設定し、実現する。</p>
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <p>・教職員の勤務時間。業務の実態把握。年休取得率。</p>

中間評価

<p>各種指標結果</p> <p>・電話対応時間は守れており、効果がある。</p> <p>・目標退勤時刻を定めたが、超過勤務の時間を減少させるのは難しかった。</p> <p>・ノー残業デーがほとんど実現できていない。</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>・目標退勤時刻は日々の勤務の中で意識することができていた。</p> <p>・業務の運営に見通しをもち、教育効果へつなげていくことは課題である。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>・会議の精選、就業時刻の設定。</p> <p>・預かり保育の教員と協力・連携を十分に図り、会議や職務遂行がスムーズにいくようにする。</p>
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <p>・預かり保育の時間帯の職務遂行状況。</p> <p>・超過勤務時間</p>

学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> 働き方改革の取り組みについて、地域として何か支援できることがあるのかが、課題であり、検討する必要がある。
---------	--

最終評価

	<div>中間評価時に設定した各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> 超過勤務時間は微減である。教員も退勤時刻を意識して職務にあたっている。 預かり保育時間の教員のかかわり方については、ボランティアを入れることで担当教員の負担が軽減されることがあっても、担任をはじめ教員がかかわる場面も多く、職務遂行が遮られることが多々ある。
自己評価	<div>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <ul style="list-style-type: none"> 超過勤務については一定の成果があったと思われるので、引き続き意識していきたい。 預かり保育においては担当教員とのボランティアも含め、勤務について共有していく必要がある。 <div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> 退勤時刻を意識して、職務遂行にあたる。 預かり保育の時間帯にも会議や自分の仕事に費やす時間を補填できるようにする。
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> 先生の業務は多岐にわたり忙しいことが良くわかる。何か力になれることがあればと思う。